



| | |
|------------------|---|
| Title | 目撃者の証言に関する実験 |
| Author(s) | 仲, 真紀子 |
| Citation | 最新・心理学序説, 久保田圭伍, 野口京子編, ISBN: 4760825940, pp.52-53 |
| Issue Date | 2002-04 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/44696 |
| Type | bookchapter |
| Note | 2章 認知. トピック6 |
| File Information | SSJ2002_52-53.pdf |



[Instructions for use](#)

目撃者の証言に関する実験

事件の捜査や裁判において、目撃証言の果たす役割は大きい。以下、知覚、保持、想起の各段階に分けて、目撃証言の信頼性を検討した実験やレビューを紹介する。

知覚段階：目撃者の視力、目撃時間、対象の距離、明るさ、偶然目撃したのか注意して見たのか等は、証言の信頼性にかかわる重要な変数である。例えば巖島行雄らは現実の事件に基づき、暗闇で車上の人物が目撃されるという事態を検討した。このような状況では目撃証言の信頼性はきわめて低い (Itskushima, Y. *et al.*, in press)。また、犯人が凶器を持っていたりショッキングな情景が繰り広げられた場合、注意が凶器に集中したり (凶器注目効果)、注意が阻害されることが知られている (箱田裕司・大沼夏子, 2001)。

保持段階：記憶は時間とともに減衰するので、事件から時間が経つほど証言は不正確になる。また、保持期間が長くなると、他者との会話やメディア情報により、記憶が変容する可能性も高くなる。事後に読んだ報道記事の内容が元の記憶と置き換わってしまう可能性 (事後情報効果：ギャリー, M. ら, 2001) や、捜査過程で示される似顔絵や被疑者の写真が目撃者の記憶を低下させることも知られている (Naka,

M. *et al.*, in press)。

想起段階：捜査官が目撃者からどのように情報を引き出すかも、証言の信頼性に影響を及ぼす。例えば捜査官の威圧的な態度や、yes/no 質問、A or B 質問などのクローズド質問は誘導として機能しやすい (Gudjonsson, G. H., 1987)。また、顔の識別には複数の人物や写真から被疑者を選ぶラインアップ (写真の場合はフォトラインアップ) が用いられるが、ラインアップを構成する人物や写真、教示 (「この中に犯人はいるかもしれないし、いないかもしれない」) の有無も、識別の正確さに影響を及ぼす (Wells, G. L. & Bradfield, A. L., 1999)。目撃者の確信度が高くても、必ずしも識別が正確だとはいえないことを示す実験もある (浅井千絵, 2001)。

このように、目撃証言の正確さに影響を及ぼす変数は多い。そのなかでも、質問やラインアップの方法など、制度や捜査側の工夫により統制できる変数をシステム変数という。一方、目撃者の能力や目撃状況などの統制できない変数は推定変数と呼ばれる。欧米ではシステム変数を明確にし、諸実験の成果を取り入れ、正確な目撃証言を得るためのガイドラインがつけられている。わが国でもそのような取り組みが必要

である。 (仲 真紀子)

引用文献

浅井千絵 2001 既知性が目撃者の同一性識別に及ぼす影響——正確性と確信度の関係 心理学研究, 72, 283-289.

ギャリー, M., レイダー, M., ロフタス, E. 2001 出来事の記憶と誘導尋問 渡部保夫 (監) 目撃証言の研究 北大路書房 pp.195-200.

Gudjonsson, G. H. 1987 A parallel form of the Gudjonsson suggestibility scale. *British Journal of Criminal Psychology*, 26, 215-221.

箱田裕司・大沼夏子 2001 情動が目撃証言におよぼす影響——情動の喚起と凶器注目効果 渡部保夫 (監) 目撃証言の研究 北大路書房 pp.73-88.

Itsukushima, Y., Nomura, K. & Usui, N. (in press) Reliability of eyewitness testimony: A field experimental approach for a real crime. *Journal of Police Science and Management*.

Naka, M., Itsukushima, Y., Itoh, Y. & Hara, S. (in press) The effect of repeated photo identification and time delay on the accuracy of the final photo identification and the rating of state of memory. *Journal of Police Science and Management*.

Wells, G. L. & Bradfield, A. L. 1999 Measuring the goodness of lineups: Parameter estimation, question effects, and limits to the mock witness paradigm. *Applied Cognitive Psychology*, 13, S27-S39.